

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071500922		
法人名	医療法人 完光会		
事業所名	医) 今野病院 グループホーム青葉	ユニット名	青葉 I
所在地	福岡県大牟田市青葉町12-11		
自己評価作成日	2025年3月24日	評価結果市町村受理日	2025年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2025年4月7日	評価確定日	2025年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム青葉は母体が病院です。各ユニットに看護師を配置しています。医療面では母体病院の協力もあり不安なく対応が来ています。敷地内では杏子や桜、栗の木があり風を感じ、うぐいすの声やメジロを見ることで青空を見て生活の中で自然を感じることが出来ます。家庭的な雰囲気大切にしながら入居者の意思を尊重して職員は支援しております。入居者様の声に出せない気持ちをくみ取り、寄り添い、日々ケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム青葉”は開設25年目を迎えている。隣接する今野病院が母体であり、24時間の医療連携が行われており、医師、病院の看護師、ホームの看護職員、病院のリハビリ職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）等との連携も密に行われている。経管栄養など医療ニーズが高い方も入居されており、実習に来られた看護学生から「病院とは違う空気感で、家庭的に感じられる」などの感想をいただいた。ベッド上で過ごすことが多い方は、ベッド上の目線に合わせてカレンダーを貼ったり、体位交換すると、ご主人の写真が見えるように工夫されており、愛着のあるイタチ（ムータン）のぬいぐるみを家族が持参して下さり、ご本人の癒しになっている。気候の良い日はホーム周辺を散歩し、ホームの畑で野菜の成長を楽しまれ、庭の桜の花を眺めており、家族と自宅に帰られたり、買い物に行かれる方もおられる。2つのユニットの連携も素晴らしく、管理者等を中心に職員個々の頑張りや更なるチームワークのための取組みを地道に続けている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寄り添う介護を実践し新人職員にも繋げるようにしている。	グループホームの「運営規定」に、「倫理綱領」「利用者の権利」がわかりやすく書かれている。理念である「地域とのふれあいを大切にしながら 家庭的な雰囲気の中で その人らしく ゆっくり楽しく自由な生活が送れるように支援します」を大切にされており、新人職員も理念を共有し、食事・入浴・レクリエーション等を含め、理念にある「ゆっくり楽しく…」を日々実践している。「青葉だより」にも理念を記載し、日々の取組みを家族と共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館の会合に参加。地域リサイクル当番も職員、管理者で受け、コロナ禍の中で地域の方と交流が途絶えないようにしています。	大蛇山祭巡行が今野病院の駐車場に来てくださり、ご利用者も1年間の「無病息災」を願って大蛇に頭を噛んでもらうことができた。駿馬小の生徒が作られた「門松」や「花のプランター」を校長先生等がホームに届けてくださり、ご利用者の方々はバンジーやチューリップを楽しまれている。有明高等学校看護学科の実習も受け入れ、職員も介護の基本に戻れる機会になっている。地域で開催される「ほっとあんしんネットワーク模擬訓練」に参加し、対象者の方が目的地に到着できる支援を地域で協力して行うことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の会合もコロナ禍とスタッフ不足で参加が毎回出来ませんでした。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム青葉だけではなく母体病院職員も一緒に会合に参加し地域とつながるようにデイサービス管理者も参加するようになりました。	写真を見ていただきながら、日々の取り組みや生活状況等を参加者に報告しており、「虐待の芽チェックリスト」「言葉遣い」などの自己評価も報告している。自己評価（外部評価）結果も報告し、「外部評価でも高く評価されており、入居者にとって安心して過ごせる施設と思います」「家族の方から感謝されている。職員の方は謙虚。職員の方は自信を持っていると思います」等のお言葉を頂いた。ご利用者と馴染みの事業所の管理者も参加されており、再会を喜ばれている。今後も家族への声掛けを継続し、参加して頂けるように取り組む予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大牟田市消防署 R6.4/18、非常災害の対応研修の講義を受ける。R6.11/28、青葉の避難訓練に来所。大牟田市役所介護研修講師をお願いしました。	おむつ給付の申請や給付の再開時、生活保護の手続き等を市役所に相談している。運営推進会議で大牟田市役所福祉課、駛馬地区地域包括の方と情報交換しており、適宜アドバイスを頂いている。「おむつ給付」の申請時にコンチネンタルアドバイザーの方から排泄ケアの指導を頂き、日々のケアに活かしており、感染状況に応じて「あんしん介護相談員」が訪問（月1回）してくださる。大牟田市の出前講座で、「人権」「ハラスメント」等の講義を市の職員に依頼している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受けており職員が理解している。	「身体拘束をしない」事を基本にしており、身体拘束等適正化マニュアルの『3. 安易に「やむを得ない」で身体拘束を行わない』『7. 全員の強い意志で「チャレンジ」をする』等を共有している。ご本人の病状に応じて医療連携を密に行い、安全に配慮したケアを続けており、胃瘻チューブ抜去防止のために、筒状アームカバーを手作りした方もおられる。委員会や虐待の芽チェックリストでの振り返りを行い、拘束にならない「愛情ある工夫」の検討を続けている。	

自己	外部			
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>介護事業部研修や虐待の芽チェックリストを行い日々の振り返りを行っています。言葉使いに注意して、職員同士の間で注意が出来る職場に努めています。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容</p>
8	(6)	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>介護事業部研修で学んでいます。ご利用者の中で保佐人制度を利用している方がいます。</p>	<p>介護事業部の研修で大牟田市役所の方が講師になり、成年後見制度等の勉強をしている。入居時に家族全員に制度を説明し、入居後も制度の必要性の確認を続けている。入居後に制度が必要になった方もおられ、制度利用の手続きを行い、保佐人との情報交換を続けている。</p>
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が申し込みの際に説明を行い、ご家族の不安や疑問点に、説明を行っています。改定時も説明し承諾を頂いています。</p>	
10	(7)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に1回、利用者・家族のアンケートを取っています。その中の意見や要望を取り入れています。</p>	<p>感染状況に応じて面会方法の検討を行っており、2024年11月から対面で面会できている。面会時の情報交換とともに、季節ごとに「青葉だより」で日々の暮らしぶりを報告しており、年1回のアンケートは、ご利用者と家族の要望を伺う機会になっている。今後も面会方法の連絡を密に行っていく予定である。</p>
11	(8)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>グループホーム青葉会議や個人面談、カンファの時に意見や提案をする機会を設けている。</p>	<p>管理者、主任が主となり、職員個々の思いや要望の把握に努めている。毎月の会議や勉強会等で情報交換を行い、新人教育の方法、研修の仕方、言葉遣いなど、改善に向けた取り組みを続けている。両ユニットの応援体制もあり、前日の日誌をコピーして確認するなど、両ユニットの情報共有に努めている。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>働き方改革では出勤退勤の管理を行い、勤務状況を把握しています。</p>	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用について制限はありません。個人の能力が發揮できるように配慮しています。	今野病院の人事部・看護部長が主に採用面接している。グループホームへの勤務希望がある時は管理者も面接に同席予定にしており、認知症の理解や対応の仕方、第一印象、挨拶、笑顔、誠実さを感じられる人等を採用している。入職後も資格取得（認知症基礎研修の受講、介護福祉士等）のサポートをしている。両ユニットの協力体制もあり、職員の長所を伸ばす事を大切にしている。人材育成のための異動もあり、職員個々の想いを聞き取るようにしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	介護事業部研修の中で認知症高齢者の「人権・尊厳」の取り組みについて学びました。	創立者の思いである「自分の親だと思って大切にする」「自分にされて嫌なことはしない」を大切にしており、グループホーム青葉の標語である「相手を思いやる話し方をしよう」「感謝の気持ちを伝えよう」を職員と共有している。管理者などからも「職員本位」ではなく、「入居者本位」で物事を考えられる視点を伝え、ご本人に意思決定して頂けるように努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量に合った研修参加をうながしている。コロナ禍の中で研修の機会が減っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの利用者の面会を同業者同士で調整して親子の面会を何度も行いました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら、ご本人に会いに行き困った事、不安な事を聞いています。家族、ケアマネ、相談委員からは情報を聞きコミュニケーションがスムーズにとれるようにしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まったらご本人に会って、困っている事、不安な事など傾聴しています。ケアマネや相談員より情報をもらいアドバイスももらっています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時に」必要な支援を見極めケアマネや相談員から情報提供したもらい対応に努めます。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手を大切に思う気持ち・相手の立場を自分に置き換えて、出来る事を見守り一緒に喜べる関係性を築いています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を伝え、協力をしていただき、ご本人との繋がりを感じてもらえるように関係性を築いています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会が出来るようになり、久しぶりにひ孫さんに会われた方や自宅に一時帰宅されたかたもいます。	ご利用者の生活歴や昔の遊び、仕事等をセンター方式に記録している。家族や友人が面会に来てくださり、団欒されている。家族への年賀状も書かれており、家族からも手紙などをいただいている。お孫さんにクリスマスカードを贈られたり、家族に電話をかけるお手伝いを職員がしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を把握し、配席を考え共有空間を一緒に過ごせるように支援しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の方はお見舞いに行き洗濯物も引受けています。亡くなられた方は母体病院より連絡あり、会いに行きご家族にお悔やみを伝えていきます。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに寄り添い、自分で伝えられない方の事を検討しています。	ご利用者とゆっくり話すようにしており、ケアの声かけも丁寧である。毎年のアンケートでもご利用者から要望を伺い、「食べたいもの」「行きたい場所」等を把握し、希望を叶えるように努めている。意思疎通が困難な方は表情や行動を確認し、思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族、居宅ケアマネより聞き取りを行い入居前の暮らしや生活歴の把握に努めています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人より聞き取りを行っています。下肢力低下から予測出来ることを全職員で周知しています		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者・担当職員・看護師・本人・家族と話し合い必要な時は医師人OT,PT,STの意見を聞いて作成している。	担当職員がアセスメントしている。ご本人と家族の意向を確認し、センター方式等に記録している。計画作成担当者が総括表と介護計画原案を作成し、全職員で検討している。主治医・看護師・リハビリ職などからのアドバイスもあり、家族と話し合いをしている。自立支援の視点を大切に、リハビリ（立位訓練等）や「車いすを自分で駆動する」「歩行器で歩く」等を盛り込み、日課表には個別のケアと留意点を記載している。家族の協力もあり、ご本人が食べられるものを教えていただき、家族がお弁当持参で一緒に食事をされる方もおられる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の言葉や1日の様子が分かる記録を心がけています。チェック欄があるので職員同士で確認をしながら業務をしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から、お話があった時は柔軟な対応が出来るようにしています		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中で行事が縮小されました。地域の住民の方と触れ合う機会が無くなっています。入居者様の介護度も上がっています		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診察室ではご本人、ご家族がおられるので、伝えにくい情報は診察前に別紙にて情報提供を行っています。	入居前から母体病院がかかりつけ医の方が多い。24時間、母体病院（夜間は待機看護師）に相談でき、往診専門医の往診（2週に1回）も受けられ、体調に応じて救急搬送等の指示を受けている。他科受診はホームの看護師が受診介助しており、家族が同席されない場合は受診後に報告している。職員の観察力も高くなり、早期対応に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オムツ交換やトイレ介助、入浴介助の際は全身チェックを行っています。必要時は看護師に報告をし早期対応をしています。24時間連絡出来る体制にしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホーム青葉のアセスメントと日課表を一緒に提出し、利用者の不安や日常生活の様子が分かるように情報提供しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にてご家族に確認しています。必要な時は母体病院と相談しています。	「看取りに関する確認書」を説明し、意向確認しており、主治医から家族への説明も行われている。「最期までグループホームで」という方が多く、家族から「チューブ等はせず、自然に」等の希望を伺い、職員と家族も一緒に誠心誠意のケアが行われている。待機医師と待機看護師の協力があり、夜勤者の不安や負担も軽減できている。24時間の往診があり、言語聴覚士やホームの看護師が嚥下状態を確認し、理学療法士・作業療法士が車椅子へのクッションの入れ方など、ポジショニングの選定等をしてくださる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急基礎研修を受けました。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新人職員をはじめ、全職員が訓練に参加出来るように心がけています。地域の公民館館長にも訓練に参加、意見をもらっています。	2024年6月に自主訓練を行い、11月は職員、ご利用者、公民館館長、消防署職員と一緒に夜間想定訓練が行われた。地震想定で隣接するマンションへの避難訓練も行われ、訓練の振り返りも行い、反省点に関する対策に繋げている。自動通報に地域の方（公民館館長の携帯）も入っており、災害に備えて母体病院で飲料水や非常食等を準備している。BCP計画（事業継続計画）は母体病院の計画を基に作成しており、見直しを継続中である。感染委員（看護師、主任）から感染対策の研修も受けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉に出さない心情もくみ取り、声掛けや介助を行っています。ご利用者が言われてうれしい気持ちになれるように対応しています。	創立者（理事長）の思いを基本に、管理者も職員個々に「急がせない」「ご本人に直接質問し、意思を確認する」「ゆっくり話を聴く」等を伝えている。「ご利用者ファースト」の意思決定を大切にしており、「～してもらっていいですか」と質問するように努めている。介護事業部の研修で個人情報管理の資料を作成し、職員間で共有している。	今後も“虐待の芽チェックリスト”で日々の行動を振り返る機会を増やし、職員個々のチェック内容に応じた原因と対策の検討に繋げていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話をゆっくり待つ気持ちで傾聴しています。その時の雰囲気づくりも大切にしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の下膳・飲み物の選択・自室で休む際の意志確認はご本人に尋ねています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備では洋服、タオルを一緒に選んでいます。離床の際は、くしを手渡し髪をとかしてもらっています。経管栄養の方は唇が乾燥する為、リップクリームを塗っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	白米やお粥の上きな粉やふりかけをかけて食べてもらっています。一口大にカットすることで、自分で食べられています。全介助の方は小茶碗とスプーンを持ってもらい少しずつ食べられるようになりました。	2024年12月以降、3食とも母体病院で調理している。職員が車で食事を受取りに行き、できたての温かい食事を提供している。ご飯（お粥）はホームで炊き、刻み食やトロミ食もホームで個別に調理している。ご利用者もテーブル拭き、エプロンたたみ、自分の食器集め等をしてくださり、畑の野菜（トマト、きゅうり等）も収穫してくださる。職員の手作り水ようかん等も楽しまれている。	以前のように、ご利用者と一緒に手作りをする日を作り、楽しみを増やしていきたいと考えている。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一口大や細刻みにして提供しています。栄養補給ジュースを飲む方もいます。コーヒーなどは湯温とトロミに注意して提供しています。1日の水分摂取量は計量して把握しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日出来ている。義歯着脱が自分で出来るかチェックしてコップ、歯ブラシ、ガーグルベースを手渡している。うがいが出来ない方は訪問歯科医に助言指導をもらいスポンジケアを行っています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを行いトイレ誘導をしています。日中はトイレに行き、夜間はポータブルトイレを使用される方もいます。	排泄が自立している方もおられ、排泄感覚や表情等を観察し、個別誘導している。移乗介助も行われ、体調等に依りて2人介助している。失禁時に落ち込まれ、自分でリハビリパンツを希望する方もおられ、排泄時はドアを閉め、羞恥心に配慮している。個別のパッドの大きさ、夜間の排泄方法等も職員間で検討し、大牟田市のコンチネンタルアドバイザーに相談し、おむつの当て方を含めて日々のケアに活かしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	サンファイバーを毎日摂取される方や漢方薬の方もいます。腹部マッサージや温めも取り入れています。排便コントロールは表にして分かりやすくしています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり、ゆっくり入浴をしていただいています。目を閉じて気持ち良さそうに感じられます。	2019年に「ユニットⅡ」に機械浴が設置された。身体状況に応じて「ユニットⅠ」のご利用者も機械浴を利用し、湯船に浸かられている。入浴好きな方が多く、希望の入浴回数や好みの湯加減を聞いており、入浴時は職員との会話を楽しみ、菖蒲湯も楽しまれている。できる範囲は洗っていただき、ご自分で髭剃りをされる方もおられる。入浴を拒む時は時間を空けて再度声かけし、コミュニケーションを図りながら入浴に繋げており、無理強いしないようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人に尋ねて自室ベッドで休んでもらっています。「一人は寂しか〜」と言われる方は職員の横で傾眠されています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ごとに薬説明書をファイルに閉じています。朝、昼、夕の錠剤数の早見表を作成し与薬前のダブルチェックに使用しています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や新聞をたたむ、お手伝いを毎日している方がいます。夜間にブラックコーヒーとビスケットを毎日、楽しみにしている方もいます。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームの敷地内を散歩することはあります。鳥が好きな方は飛んできた鳥を見ることがあります。	車いすを利用する方も増え、全員での遠出の外出は減っている。気候の良い日はホーム周辺を散歩し、ホームの畑で野菜の成長を楽しまれている。庭の桜の花を眺めたり、空を飛ぶ鳥やプランターの花、メダカを眺める方もおられる。家族と自宅に帰られたり、買い物に行かれる方もおられる。	今後も感染状況に応じて散歩やドライブの機会を作るとともに、介護計画に更なる楽しみを増やしていく予定である。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配を時折される方はいます。お金を持って買い物をする機会はありませんでした。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お孫様へクリスマスカードを送られる方のお手伝いをしました。経管栄養の方で面会が禁止の時に娘様から自宅の切り花が何度も届きました。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には季節を感じられる飾り付けを毎月しています。大きな日めくりカレンダーもあり見やすくなっています。	両ユニットとも平屋造りで、リビングは明るく、庭の桜などを眺めることができる。廊下の幅も広く、車いすの方の離合もスムーズである。ユニット毎に日差しの入り具合が異なり、遮光カーテンとすだれを活用しており、換気も適宜行っている。コロナ禍以降、テーブルにパーテーションを置いているが、座席毎に季節のカードや切り花、絵手紙を飾り、温かみを感じられるようにしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの好きな方は自席から見やすい所に配席しています。介助が必要な方を見守る様に見ているご利用者もいます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のあるタンス、毛布、目覚まし時計、化粧水、手作りの飾り物など愛着のある物をご家族に持って来てもらっています。	ベッドは備え付けで、転倒予防で床にマットを敷いている方もおられる。自宅から毛布や整理ダンス、目覚まし時計、人形、手提げ袋、ラジカセ、CD、化粧水等を持ち込まれ、着物で作った上着、手編みの帽子、切り花等を家族が持参して下さる。ベッド上の目線に合わせてカレンダーを貼ったり、体位交換すると、ご主人の写真等が見えるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスや老人カーで移動する方がいます。廊下は障害物を置かないように気を付けています。トイレのドアには大きな字で張り紙をして分かりやすくしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				